

アマクサクラゲ



筆者が田辺湾で初めて出合ったアマクサクラゲ

久保田 信

6



た人も少ないと思う。

その日は寒波の影響で海は荒れ、立ち寄った瀬戸漁港では吹き寄せが多くあった。海表面にあるいろいろなごみに交じって本種を見つけた。すでに死んでいて浮かんでいた。ので確保は簡単だった。

長く伸びたフリル状の口腕(こうわん)は薄紫色で本来は四つあるが、半分が取れてなくなっていた。傘の縁に砂が付着しており、付近の砂浜へ打ち上げられた後、海へ戻されたと推測される。透明な傘の中心から縁に向かって放射管が多数見える。放射管が幅広く袋状になって

いるのが本種の特徴の一つで、今回、そのいくつかの砂が入ったおかげで1本ずつの大きさがよく分かった。

4カ所にある多数

の指状突起からなる生殖巣は

むき出しになっていて、やはり損傷している。この個体の画像は口側から撮影したのだが、反対側から見ると全体にいはいがたくさんある。ここには刺胞(しほう)がぎっしり詰まっているはずだが、擦れてしまったのかなくなっていた。

アマクサクラゲは毒が強く、刺されるとかなりうずくので、見つけても不用意に触らないよう注意が必要だ。平らな傘は直径10センチに達する。この個体は95ミリだったので十分に成長している。

若いポリプは、親から受精させて得たものが日本各地の水族館で飼育展示されている。鹿児島湾の深い海底に生息するサツマハオリムシの巣の上から発見された特殊な例もある。ポリプが若いクラゲのエフィラをつくるとき、1個体から1個体しかつくらない。これは、同じ仲間のよく知られるミズクラゲが多数つくると異なる。

(京都大学准教授)